

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・トライアングルやタンバリン、カスタネットなどの楽器に触れる機会を多く設定した。音符と休符を読み取りリズムよく演奏することを目指したり、音そのものを楽しんだりするようになった。また、手打ちをすることで、音符と音の長さとの関係が身に付いていた。
- ・児童が表現の工夫をしやすいよう、発達段階に応じた手立てを講じることによって、多くの児童が最後まで演奏することができた。
- ・基礎的な技能の向上のため、回数を増やし何度も練習を重ねることで歌唱や器楽の技能の定着が図れた。
- ・連合音楽会や音楽会など、たくさんの人に聴いてもらう機会が少なかったものの、演奏を録音して聴く活動を取り入れたことで、自分たちの演奏の良さや改善点を客観的に理解し、より良い演奏に向けて練習をすることができた。
- ・お互いに教え合う活動を行い、コミュニケーション力の向上や、演奏を苦手とする児童の楽器演奏技能に向上が見られた。
- ・曲のよさや演奏することの楽しさを味わいながら、聴いたり、体を動かしたり、口ずさんだりできる児童が多かった。
- ・感じたことを言葉にする言語活動に力を入れて取り組んだことで、児童の音楽に対する見方が多様化した。

(2) 課題

- ・鑑賞では、言葉や文で表現する場合、表現する力の個人差が大きかった。
- ・技能の習得に努力を要する児童への個別の指導を行っているが、演奏できた喜びや音楽を奏でることの楽しさを味わうためにはさらなる工夫が必要である。
- ・より深い話し合い活動にするためには、話し合いの際の手立てに工夫を凝らす必要がある。
- ・児童の中で振り返りを行うことが定着したが、題材、教材を通した学びの振り返りを行うには工夫が必要である。
- ・「楽しかった」で終わるのではなく、その音楽を学ぶ上での気づきや面白さなどをより深く学ぶ学習をしていく必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音楽ワークを取り入れ、読譜能力などの知識を定着させる。 (指導計画) ・鍵盤ハーモニカの準備の仕方と適切な奏法が身に付くようにするため、順序立てて活動する。 (授業構成)	・曲の様子に合わせて楽しく体を動かして、曲に合った表現ができるようにする。 (授業構成)	・楽しく取り組めるように、体を使ったリズム遊びを取り入れる。 (授業計画) ・より音楽に親しめるよう、季節の歌やいろいろな曲を聴いたり、歌ったりする機会を設ける。 (授業構成)

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分たちの歌や演奏を録音して聴く場面を作り、改善点に気付けるようにする。 (授業構成) ・リコーダーの適切な奏法を身に付けるため順序立てて活動する。 ・演奏に努力を要する児童には個に応じた指導をする場を設ける。 (授業形態)	・音楽を聴いて感じ取った要素やイメージなどを交流する場を設け、様々な見方があることを知る。 (授業構成) ・互いに演奏を聞き合い演奏を評価する場を設ける。 (授業形態)	・器楽学習をスモールステップで行い、達成感を味わえるようにする。(授業構成) ・みんなの前で演奏する機会を設け、感想を交流しながら互いの良さを認め合えるようにする。 (授業形態)

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・演奏に努力を要する児童には、個に応じた指導の場を設ける。 (授業形態) ・録音した自分たちの演奏を聴いて比較する活動を通して、よい点や改善点を見付け、さらに伸ばしていけるようにする。 (授業形態) ・音楽会に向けた取り組みを通して、様々な音楽表現を身に付けられるようにする。 (授業構成)	・ICTを活用し、意見を集約・共有できるようにする。 (授業形態) ・聴いた音楽を価値付けたり、知覚したことと感受したことを結び付けたり、言葉や文字で表現したりする活動を日常化し、苦手意識をもたないようにする。 (授業計画)	・どの児童も意欲的に学習に参加できるよう、個人、ペア、グループなど内容に応じた活動にする。 (授業形態)